

郷土紹介

徳徳寺

毎年、みどりが失われ
て行く私たちの町ですが、
瀬田一丁目周辺は未だ路地
に木々が繁り、閑静な町並
みが残ります。この一帯は
かつて瀬田村の下原と呼ば
れていた所です。

ここに、浄土宗の法徳寺
があります。正式の名称は
福栄山専光院法徳寺、二本
尊は阿彌陀如来です。今か
ら四百有余年前の永祿元年代
源運社宗尊上人が阿彌陀福因
公大和上によって開山、白
井五良左衛門重安が開基し
たと言われています。白井
基経、重安父子は足利義明
の家臣でした。帰農して瀬
田村に永住、重安は後に法

徳と名乗った為、寺号が法
徳寺となったそうです。

参道を進むと右側に古い
石塔が並んでいます。その
一番奥に昭和五十七年に亡
くなった歌手江利チエミさ
んの追善像が建てられています。
チエミさんの墓所も当寺に
あるとの事で、この像の前
に立つと、あのデネシーワ
ルツが聞こえてくる様な気
がします。

又、境内には江戸時代末
より明治初年にかけて瀬田
村で寺子屋を開いていた入
塚貞三郎師を讃える鐘楼も
あります。そして今、この
お寺に併設されているかわ
かな保育園からは、園児
たちの元気な歌声が聞こえ
、木々にこだましています。
(飯田)

鍛と」 土庫子目

『指揮棒 石橋 義也

ギラギラ照りつける太陽
で、今日も雨の気配なし。
毎日こんなカンカン照り
では、畑の野菜も枯れてし
まう。少し位の水やりは、
文字通り焼け石に水。

この夏ほどアリの数家
も、我々のような素人
農民にも泣かされた事
はありません。

指揮棒より重い物を
持った事のない音楽家
が、鍛を振るい趣味の畑仕
事を始めてかれこれ十年、
自然との戦いを続けていま
す。

キザな言葉でいうアルメ
というほどではなくとも、
いわゆる旬に完熟した野菜
が食べたい一心で手作りに

挑戦。これがやってみると
大変に苦労があるものです。

野菜だって生きものの、水分
や栄養、適当な温度と日照
が無ければ育たないし、病
気にもかかる。虫や鳥との
闘い、台風と大雨。

十五平米の区民農園で
も手入れと世話に大わ
らわ。音楽家もよい音
楽を作るため絶えまざ
る研究と練習、肥料と
なる良い音との融れ合
いが必要です。

野菜作りと同様インスタントに
出来るものではなく、毎日
の手入れが大切で、じっく
りと構えて成長を見守る必
要があります。そして良い
演奏ができた時同様、取れ
たての野菜が食べられる喜
びはひときわです。

紅葉

三ツ馬越 直理子

紅葉のささや
色とりどりに、
葉っぱがささや。

赤黄緑、
葉っぱがささや。

ドレスの
発表会

でもやがて
落葉となってしまう。

でもそのまえに
うふんとがんばる

ドレスの
発表会

でもそのまえに
うふんとがんばる

十月九日、今日は社会科
見学、はくははり切って家
さとい出し歌を歌いながら
学校に行きました。

見学が一番は、キーボード
ネーズ工場。けい王様のせん
川歌の近くなので、交通じ
ゆうたいしていて大変でし
た。

キーボードネーズ工場に
は、一秒間に十こもわれろ
きかいがありました。計算
してみると、一年間に
千万こもわれます。す
ごいきかいだと思いま
した。工場の人の話で
は、マネーズはできたて
より、作られてから、
一か月ぐらいたったの
が一番おいしいということ
です。そのことを家に帰っ
てお母さんに話したら、
「へえ知らなかったわ、今
度からよく見て買おう。」
と言いました。

次に九品仏浄真寺に行き
ました。すごい大きいカマ
の木があって三十一メートル

世田谷めぐり

世田谷区立小学校 三ツ馬越 直理子

浄真寺の住しよくの
話では、浄真寺は、お
く沢城のあとに建てら
れたそうです。上中下の三
つすの仙やうがあつて、
せんぶ手の形がらがいまし
た。

浄真寺から、きょう土し
りょうかんまでのけしきは
、何度も通ったことのある
道でした。
きょう土しりょう館の、

代かんやしきは、江戸時代
の物で、かやぶき屋根でし
た。

ぼくは、作るのが大変だ
ろうなと思いました。

今日の見学は、世田谷区
の知らなかつたものがわか
って、すごく勉強になりました。

祝
三ツ馬越 直理子
創五十五周年
おめでとうございます

東京に水枯し一号が咲き
ました。区民農園の皆さん
も冬仕度になり、八百屋
さんの野菜、果物も早生
物が少なくなりました。

高城さんの「ドレスの発表
会(冬装束)」も終り、朝夕の
寒さが厳しくなります。
風邪の用心、火の用心を。
(大坪)